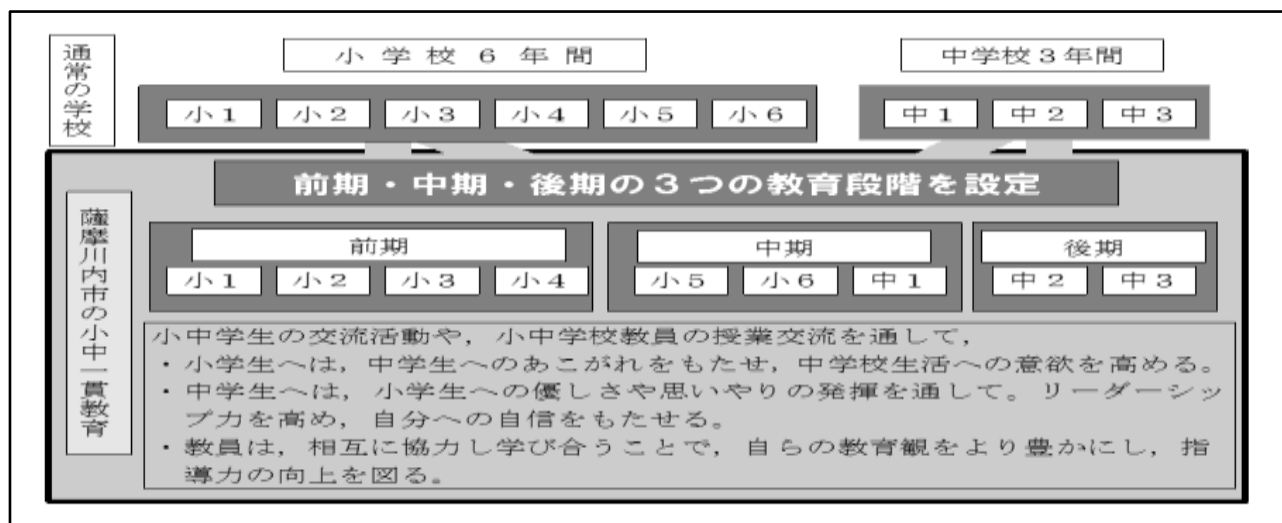


薩摩川内市が推進する「小中一貫教育」



薩摩川内市では平成21年4月からすべての市立小・中学校で、小中一貫教育を実施している。従来の小学校6年間・中学校3年間計9年間を、前期：4年間（小1～小4）、中期：3年間（小5・小6・中1）、後期：2年間（中2・中3）の3期に分け、特に中期：3年間の小学校から中学校への接続期における交流を中心として、カリキュラムの研究、指導法の改善などを行ってきた。

令和3年度から、小中一貫教育の第5段階に入った。学力向上へのシフトチェンジを行い、キャッチフレーズを「めこえこ」さつませんだいスピリッツとし、目と声と笑顔で心が通い合い、学びがつながる小中一貫教育を推進していく。

【薩摩川内市の小中一貫教育のねらい：第5段階から追加（令和3年度～）】

- ・課題を共有し、子供も教員も学びを実感することができるようにする。
→ミドルゴール(5年)・ファイナルゴール(9年)を設定し、9年間を見通した取組になるようにする。

東郷学園義務教育学校の「小中一貫教育」

【※前期課程は1～6年、後期課程は7～9年である。以下、前期課程、後期課程と記載】

本校は、前期課程と後期課程、それぞれの教員の縦の連携を日頃から大切にし、共に取り組む協働授業や合同で行事を行うなど、施設一体型義務教育学校の強みを生かしながら「小中一貫教育」に取り組んでいる。

「小中一貫教育」の最終的なねらいは「学力向上」である。そのためには、各ステージ（1～4年、5～7年、8・9年）段階の学びを充実させ、次のステージへの円滑な接続を図ることが重要である。このことにより、「豊かな人間性」や「健やかな心身」の育成も図ることができる。具体的取組として、9年間を見通した教科等のカリキュラムを作成し、学習内容の系統性を考慮しながら、発達段階に応じた指導を計画的に進めている。

また、世の中を生き抜く上で必要な基本的生活習慣を児童生徒一人一人に育むため、「東郷セブン[7]アクション」の確実な実践に努めている。

さらに、「ふるさと・コミュニケーション科」の内容を一層充実させる取組を進めている。それぞれの学びを単発で終わらせず、ねらいに沿った探究的な活動の展開を図ることで、そこで得た知識を次の学びに繋げたり、日常生活に生かしたりするなど、目指す児童生徒の姿を確立していく手立てをとっていく。

令和6年度は、これらの取組を通して、薩摩川内市が目指す「小中一貫教育」の推進を図ることとする。

学校教育目標

ふるさとを愛し 自ら学び 心豊かにたくましく 夢実現に挑む児童生徒の育成

児童生徒の姿

学ぶ楽しさ、つながる喜び、貢献する満足感を味わう児童生徒

東郷学園義務教育学校 研究主題

子供も教師も主体的に学ぶ義務教育学校の在り方
～『交流』・『連携』・『一貫した指導』の3側面から～

継続とチャレンジ

【実践の方針】

- I 施設一体型と4－3－2制を生かした小中一貫教育を実践する。
- II 確かな学力を付ける授業・授業研究・協働授業を全教職員で実践する。
- III 児童生徒を9年間で育てる教育課程を実践・検証し、データを蓄積する。



薩摩川内市小中一貫教育のねらい



授業における協働

多様な人々との協働

- 協働授業
- 相互授業参観
- 課程を超えての教師同士の学び合い
- 共通実践
- 教科部会

- 合同による学校行事
- 児童生徒会活動
- ふるさと・コミュニケーション科
- C・Sの日
- 世代を超えて地域について語ろう
- 東郷もりあげ隊



8・9ステージ

貢献する満足感

ファイナルゴール

5～7ステージ

つながる喜び

ミドルゴール

1～4ステージ

学ぶ楽しさ

開校1～5年間の実践の積み上げ

コミュニティ・スクール

東郷の特色・風土・資源

児童生徒の実態

家庭教育の充実

施設一体型義務教育学校